

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500415		
法人名	医療法人 安倍病院		
事業所名	グループホーム みどりの里		
所在地	宮若市長井鶴230番地		
自己評価作成日	令和元年7月15日	評価結果確定日	令和元年8月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和元年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体の為、常に病院と連携をとって、月曜～土曜まで毎朝主治医に入居者の状態を報告し、体調が悪かったり、急変時にはすぐに対応できる体制が整っているため、家族の方・入居者に安心して生活を送ることが出来ます。午後よりレクリエーションをして入居者同士の交流の場を設けております。2ヶ月に1度家族会・茶話会を開き、茶話会ではボランティアの方に来ていただき、踊りや歌を披露して頂いています。去年より年に1回グループホームサルビアの方と合同で運営推進会議を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2年毎に理念を見直し、入居者や家族の尊厳や笑顔、地域との絆、ふれあいなどを謳った現理念を、毎朝リビングで入居者とともに唱和している。人生の最終章を共に歩んでいるとの思いで、入居者の「トイレで排泄したい」や「他の入居者と同じ食事をしたい」との思いや、声に出せない「思い」を検討し、3ヶ月毎に入居者の食事・入浴・排泄・睡眠に特化した報告書を家族に送付し、入居者の現状に即した介護計画の作成や実施に取り組んでいる。隣接する母体医療機関から退院された方の入居が多く、医療と密接に連携し人材不足の折は職員の補充を受けながら、入居者や家族が安心できる生活を提供している。市内のグループホームと合同で開催されている運営推進会議は新たな気づきの場となり、恒例となった家族会や茶話会で地域の絆を培い、地域包括ケアの拠点として今後の取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/グループホームみどりの里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日リビングにて申し送りの前に、運営理念を唱和し、スタッフ間・入居者にも分かるようにしている。家族の方には分かるように掲示をしている。	2年毎に理念を見直し、毎朝リビングで入居者とともに唱和している。中には誂んじる方もいる。管理者や職員は、人生の最終章を共に歩み、入居者の尊厳や思いに配慮しながら、理念の具現化を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に1度ボランティアの方に来ていただき、茶話会を行っている。いろんな方が出入りできる環境作りをしている。	定例の茶話会に歌や踊りのボランティアの訪問があり、家族にも参加を呼びかけている。地域からの入居者が多く、初詣、どんど焼き、秋祭りには入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回地域の行事でふるさと祭りが行われており、入居者はスタッフと一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、地域の方・民生委員の方・自治会長・入居者家族の方に参加していただき意見交換し、会議内容を掲示している。去年より他のグループホームと年に1回合同で運営推進会議を行っている。	適切なメンバーで定期的開催している会議では、ホームの現状やヒヤリハットを報告し、意見をいただいている。市内のグループホームと合同で開催した運営推進会議は、入居者の意見発表や他の地域の方との交流、議事録やお互いの状況を知り合う場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員が参加して頂いている。月に1度市役所から電話があり、入居状況を報告している。	毎月、担当者から入居状況の問い合わせを受けたり、地域の同業者協議会GHみやわか研修会に講師派遣を要請するなど、日頃から連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修にスタッフが交代で参加している。毎月カンファの時にスタッフ間で身体拘束についての話し合いを行っている。	車椅子から転落しそうになる入居者は家族の了解を得て椅子の安全ベルトを使用していたが、拘束の適正について話し合い、安全ベルトを止めていた。最近、座位が保持できなくなり、ミーティングで今後の対応について話し合う予定である。職員は、研修などで「待って」の言葉が拘束になることも理解し、「〇分待って」と付け加え、拘束がないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止策としてスタッフ間でストレスが溜まらない様に話し合いや勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度についてGHみやわかなどの研修に行き、スタッフ間で共有している。現在、1名成年後見人制度でお金面のみ利用している方がいる。	現在、成年後見制度の活用が1名あるが、検討したが活用に至らなかった入居者もある。GHみやわかの研修会に職員が交代で参加し、伝達講習を実施している。入居契約時等に、権利擁護に関する制度の説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問や不安に思う事は十分に説明し、理解して頂き、納得の上で、家族・利用者サインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム・苦情などはない。クレーム・苦情があった場合は、すぐにカンファレンスを開き職員間で話し合いの場を設けている。	全家族に参加を呼びかけ、2ヶ月に1度、家族会を開催している。4~5家族の参加があり、入居者と同じ食事を提供し感想を伺ったり、職員との交流を目指している。	家族同士が交流したり意見や要望を話し合う時間を設け、サービス向上や運営に反映されることを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員間でカンファレンスを開き、入居者の意見交換の場を設けている。	毎月、2ユニット合同で、職員ミーティングを開催し入居者の現状、ヒヤリハット報告、身体拘束の是非、伝達講習等で、意見を交換している。時間外のため参加していない職員には連絡ノートで周知している。物品購入や急ぎの用件は管理者がとりまとめ代表に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の見直し、労働時間・有給を取れる体制を心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用時は差別のないように充分配慮し、高齢者も採用している。	母体医療法人が募集・採用し、医療法人からの異動もあり、30代から70代の職員が勤務している。5月の10連休の取得で人員不足に陥り、母体法人から数ヶ月職員の補充を受けている。ホーム内研修の他、GHみやわかの研修会には、職員が交代で参加している。育児休業や代休制度があり、希望休や昼休みを取得し、資格取得を目指す職員がいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	GHみやわかの研修に参加し、資料作成し人権意識を高めスタッフ同士が共有を図っている。	人権の研修会に参加し、ミーティングで共有している。入居者の尊厳を理念に謳い、ひとり一人の希望に沿って、名字や下の名前で呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月病院で行われる研修に参加したり、GHみやわかの研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月GHみやわかの研修で同業者との交流する気機がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っている時・不安になっているときに、スタッフはすぐに駆けつけ声掛けをし、話を傾聴して安心して頂くように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来られた際は、入居者の状況を報告し、積極的にコミュニケーションを図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況を知る為に、ケアマネジャー・主治医から話を聴き、本人や家族から要望を聞いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を知り、家族から話を聞いたり、信頼を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来られて時や2ヶ月に1度行っている家族会の場で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が病院の通所リハビリに多く参加されているので、慰問がある時や時々遊びに行き交流をしている。	お正月には帰宅される入居者が多く、毎月家族が歯科受診に同行しドライブ等を楽しむ入居者もある。家族の協力を得ながら、葬儀や墓参りの参加、馴染みの美容院へ出かける事が継続されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれるように、スタッフが間に入り支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院との関わりがあるので、いつでも要望などが聞ける体制である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とコミュニケーションをとり、意向の把握に努めて、スタッフ間で情報交換をしている。	入居者毎の担当職員からミーティングで報告を受け、全員で声に出せない「思い」を検討している。入居時は寝たきり状態で前止めの紙オムツを使用していた方のトイレで排泄したいとの思いを受け止め、トイレ誘導を続け、今ではリハビリパンツでトイレに行けるようになっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族に生活歴を聞き、コミュニケーションを図り、入居者らしい生活が送れるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは毎日申し送りし、記録を確認するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を聞き、ケースカンファを開き、入居者のニーズを見つけ出すようにしている。	3ヶ月に1度、入居者の食事・入浴・排泄・睡眠に特化した報告書を家族に送付し、家族が要望を表出できるように工夫している。ミーティングで担当職員のモニタリングを全員で検討し、家族の要望を反映しながら入居者の現状に即した介護計画が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の情報は、スタッフ間で共有できるようにカンファレンスを毎日している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じて、買い物に行ったり、電話をしたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを重視し、ボランティアの方に踊りや歌などの慰問に来ていただいている。年に2回消防署の協力で、火災訓練を実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日・祝日以外毎朝ドクターに入居者の状況を報告し、体調の変化時には直にナースに報告し指示を仰いでいる。週1回ドクターが往診に来ている。	隣接する母体医療機関で入院されていた方の入居が多く、運営者が全員のかかりつけ医である。医療ニーズの高い入居者も多く、医療と密接に連携して、入居者や家族が安心できる生活を提供している。訪問歯科診療を利用される方もいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と連携しているので、何かある時は直にナースに連絡し指示を仰げる体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携しているので、何かあれば連絡できる体制が整っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、ご家族に看取りに関する説明は行っている。出来るだけGHで介護させて頂いている。最終的には主治医の指示に従っている。	重度化した場合の説明を入居契約時に行い、看取り介護の同意書も整備しているが、主治医や家族の話し合いの結果、医療機関に繋げ、現在までホームでの看取りはない。管理者と職員は入居者の人生の最終章を共に歩んでいると、入院直前までの生活が、より良い状況になるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の時は病院へ連絡できる体制が整っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。非常食は3日分準備している。	年2回夜間想定避難訓練が行われ、避難済みの居室はマスコット人形を取り外している。病院からの応援体制が構築され、運営推進会議で訓練の参加を呼びかけている。飲料水やお粥、スープ等の備蓄台帳を整備し、消費期限等に注意している。	火災だけでなく自然災害等を想定し、緊急連絡網の点検や避難場所の確認等を話し合い、全職員への周知を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせてトイレ等周りに配慮して支援を行っている。	帰宅願望のある入居者に、「本当は自分の家で過ごしたいよね」と本人の思いを受け止めながら、本人や家族が安全で安心した生活が送れるように言葉かけや見守りで対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を出来るだけ尊重し、入居者にあった支援が出来るように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合わせた生活が送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれにあった声掛けをし、整容している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けしテーブル拭きなどできる入居者には手伝っていただき、スタッフと一緒にしている。	入居時は栄養ゼリーの指示が出ていた入居者も「あの人の食事が食べたい」と言われ、主治医に相談しながら、お粥、普通食になった入居者がいる。食事は入居者にとって、楽しみや喜びになり、意欲を引き出すと捉えて、ホームの庭には、夏野菜やブドウが栽培され、入居者と共に収穫の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人にあった食事を提供している。水分摂取量や食事を記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の食後に口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者のパターンに合わせて、定期的に交換したり、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を記録し、タイミングやサインを把握してトイレでの排泄を基本としている。入居時は前止めの紙オムツ使用の入居者が、トイレ誘導を続け、リハビリパンツで自分でトイレに行けるまでになっている。夜間のみポータブルトイレを使用する入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分摂取に心がけている。医師の指示の下で下剤を服用したり、浣腸を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回・週2回の入浴をしている。時間帯は決まっている。失禁などで汚れた時は、いつでも入浴できる。	週2回から3回を目処に、午後から入浴を支援している。特殊浴槽の導入でシャワー浴から全身浴ができるようになり、入居者とともに喜んで動くのが面倒と入浴を億劫がる方には、時間を置いたり、声かけをする職員を替えるなどで対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は1時間おきに巡回している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後薬を飲まれる方の名前をスタッフが確認し、支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや簡単な掃除を手伝って頂いたり、レクリエーションの時に軽い運動をしたり、カラオケをしたりして気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は少ないが、デイケアの慰問に見学に行ったり、少数ではあるが、初詣や花見に行ったり、ドライブに行ったりしている。	重度化や医療ニーズの高い入居者が多く、全員が外出されることはないが、家族とドライブに出かけたり、帰宅されたり、葬儀に参加される方もいる。病院のデイケアに行く際には車椅子で風景を見たり、花見や初詣も継続されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご自分で管理できず、GHで管理している。一部の方のみお小遣い程度持っておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在携帯などを持っている方はいないが、本人の訴えに応じて、家族に連絡できるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外は木を植え、プライバシー保護と日よけになるように工夫している。	二つのユニットが左右対称に建てられ、中央部のリビングは広く、畳の間はボランティアのステージにもなっている。回廊式廊下の中庭は、明るい光が差し込んで、季節の花々が咲き、入居者の目を楽しませている。疲れたら、休めるように廊下の敷き所にソファが設置され、季節感が中庭からも感じ取れる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に日向ぼっこや入居者同士で雑談できるように、ベンチを置いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、家で使っているタンスなどの家具などを持ってきて頂いていいと説明している。本人が使っていた家具などを持ってこれ使用している。	居室の入口にはデイケアで作った人形が掲げられ、避難の際の目印にも活用されている。全居室に身だしなみを整えられるように洗面台が設置されている。トイレが設置された居室や転倒防止にフロアマットが敷かれた居室もある。趣味の切り抜きを集めたり、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはして頂き、出来ないところは支援し残存機能を活用して頂いている。		